

市内各地で行われたイベントや、
まちの話題をお届けします。
ここで“なかゆくい”しませんか。
(なかゆくい=ひと休み)



市ホームページ「うらそえトピックス」
にも市内のできごとを紹介しています。



4/6 さらなる成長を目指して、次は日本代表に!

3月に高知県で開催された、相撲の全国高校選抜大会の個人80キロ級で優勝した中部農林高校2年生の眞榮里優翔さん(浦添中学校出身)が、市長を表敬しました。

同級の中でも69キロと軽量だが、筋力強化と日頃の練習の成果もあり、並み居る強豪を倒しました。松本市長は「小さい頃から活躍していた優翔さんを知っているので、成長に驚いた。厳しい世界だけど、けがに気をつけて頑張ってもらいたい」と激励し、眞榮里さんは「大会前から調子が良く、落ち着いて試合に望むことができた。小学生の頃からだこ相撲クラブで練習をしていたことが今回の優勝につながった。今後は、5月の世界大会予選で日本代表の座を目指したい」と意気込みを話しました。



4/3 行政を担う一員として、初めの一步

爽やかな春の陽気の中、先輩職員の手拍子とともに迎えられた新職員39人の辞令交付式が行われました。

スーツに身を包み、緊張した表情の新職員たちは市長や教育長、消防長から一人一人辞令を受け取りました。

新職員代表の親富祖頭吾さんは「職員として新たな一歩を踏み出せることを大変うれしく思うと同時に、魅力ある浦添を後世に残していきたい。時代の変化に迅速に対応しながら、市民と共に浦添をより素晴らしいまちへと発展させていけるよう精一杯取り組みます」と決意を述べました。



3/18 ビュッフェスタイルのこども食堂再開

「こども食堂レッツクッキング〜食べて・遊んで・楽しむスプリングデー〜」と題し、ビュッフェスタイルのこども食堂が宮城ヶ原児童センターで3年ぶりに開催されました。これまでコロナ禍の影響で一堂に会しての開催ができなかったが、行政・企業・民間ボランティアなど、多くの人の協力により、参加者73人全員で、おいしくて嬉しいひと時を過ごすことができました。

ボランティアのシェフから、豊富な調理方法を参加者やスタッフも学ぶことができ、今後「食べるだけではないこども食堂」への展開が期待できるほか、参加者同士の情報交換や、「こども食堂」の存在意義を見ていただく有意義な時間になりました。



4/14 JICA海外協力隊員、ドミニカ共和国へ

JICA海外協力隊としてドミニカ共和国に派遣される金城和治さんが、出発前の挨拶にJICA沖縄の倉科和子所長や職員と一緒に市役所を訪れました。JICA海外協力隊は、開発途上国のニーズに合う知識や経験を持つ人材を派遣する事業で、金城さんは現地の日本語学校で2年間、日本語などを教えます。

金城さんは、「海外への赴任経験や、世界のウチナンチュ大会にボランティアで参加したことで、日系社会に貢献したいと思いました。日本語や沖縄の文化を伝え、さらに現地と浦添をオンラインで繋ぐなど、やりたいことがたくさんあってワクワクしています」と目を輝かせて決意を語っていました。



4/3 「グループホームめぐみ牧港」いよいよ開所

浦添市が指定した、地域密着型サービスの施設「グループホームめぐみ牧港」の開所式が行われました。

牧港に建てられたこの施設は、認知症高齢者が家庭的な雰囲気のもと、認知症ケアに習熟したスタッフと一緒に共同生活をする施設です。個室は部屋ごとに壁紙の色が異なり、その他にもバリアフリーやエレベーターも完備されていて、入居者目線でのこだわりが詰まった施設です。

管理者の樫さんは「本法人としては、市内で初めての認知症高齢者専用のグループホーム施設となるので、地域の皆さんに知ってもらい、身近な存在になっていきたい」と話しました。



3/25 「まちプラ助成団体」事業成果を報告

市民の自主的なまちづくりを支援する「まちづくりプラン助成金」の交付を受けた4団体が、ハーモニーセンターで事業成果を報告しました。

令和4年度は食育や防災、星空観察、乳がん検診の啓発といった幅広い事業が実施され、松本市長は「事業の主旨に賛同し、協力いただいた方々へ心から感謝を申し上げます」と話し、参加者からは「活動に対する想いを直接聞くことができ、とても良い機会になった」「浦添市民として、事業の成果を知ることができ、貴重な時間を過ごせた」との声が寄せられました。約2年ぶりの開催となりましたが、熱意と笑顔に溢れた会となりました。



3/24 本島横断する魅力ある路線が本格運行

東陽バス株式会社は、4月から南城市と浦添市のサンエーパルコシティまでをつなぐ路線バス、391番城間線(サンエーパルコシティ)の運行開始を報告するため、市役所を訪れました。

昨年11月から東陽バスと浦添市は共同で実証運行を行っており、利用客の多さなどから本格運行を決定しました。この路線は、南城市から浦添市を結び、与那原町、南風原町、那覇市を経由する広域的な路線です。新入社長は「本島を横断する路線は少なく、391番が浦添市民の足になってもらえれば嬉しい」と話し、松本市長は「東西線は市民からの要望も多く、今後も互いに知恵を出し合っ、便利な路線を作り上げていきたい」と話しました。